

一 言語事項

漢字 5 問、熟語の組み立て 5 問、慣用句 5 問、四字熟語 5 問を出題しました。問一の漢字の書き取りでは、「精密」の「精」のへんが「斗」であったり、「宣伝」の「伝」のへんが「彳」になっていたりなどの誤答が多く見られましたが、読みはとても良くできていました。漢字の読み書きや基本的な語句の意味は日頃から意識して覚えておくようにしましょう。言語事項は暗記にとどまらず、漢字の意味を意識して学習することが大切です。問三の慣用句の問題では、「手を引く」「指をくわえる」などの正答率が低かったです。知らない言葉に出会ったら辞書などで必ず意味を確認して、実際に使ってみるようにしましょう。

二 説明文の読解 出典：濱田武士『魚と日本人 食と職の経済学』

「食」についての分析と筆者の考えを述べた文章です。数値の読み取りと筆者の『食』市場の変化についての原因分析をおさえながら読み進めることがポイントでした。

問一は、「食べる」という行為の持つ意味について、「共感」という指定語句を使って説明する問題でした。傍線部の近辺ではなく、15（形式）段落後の離れた一文を見つけまとめる必要がありましたが、比較的高い正答率になりました。しかし、文末の「～行為。」の「為」の誤字で減点になった解答が多く見られました。

問四は、本文の内容と照らし合わせながら資料（折れ線グラフ）の特徴をとらえ、空欄 C・D・E に当てはまる食原料類を選ぶ問題でした。空欄 C は本文直後に「右肩上がりの傾向」とあるので、「牛乳・乳製品」か「肉類」に限定でき、空欄 E は直後の「唯一上昇傾向」という説明から「肉類」と確定できます。よって、C と E のみで正答を導くことができる問題でした。

三 物語文の読解 出典：横田明子『四重奏デイズ』

合唱コンクールのピアノ伴奏者を決める場面と、合唱の練習をしている場面を描いている文章です。場面ごとの出来事に着目して人物の様子や心情が丁寧に読み取れているかを問いました。

問一は、ピアノ伴奏をやりたいがらない理由として、本文から「責任」「失敗」「目立つ」というキーワードを抜き出すことができていましたが、そのキーワードについての説明が不十分な解答が多く見られました。

問三の解答の観点は大きく二つあり、一つはクラスみんなの気持ちがちがっていること、もう一つはみんなで同じ歌を歌ってもらいたい、という内容をおさえて記述することでした。傍線部直後の「納得がいくように弾く」という語句を使った誤答が多く見られました。本文最後の「みんなで歌いはじめられたんだ。これなら、だいじょうぶかもしれない。」という記述から、「オレ」は、「みんな」で歌うことを目指してピアノを弾くことを決意したことが読み取れます。会話の一部を切り取り解答を作るのではなく、本文に即して登場人物の心情を追う必要があります。

四 複数資料を用いた総合的な文章 出典：齋藤孝『読書のチカラ』

文章・グラフ資料・会話文から条件に合う要素を読み取り、まとめて記述する力を問いました。二文構成になっていなかったり、「確かに」「しかし」という指定語句を入れなかったりして減点になった解答が見られました。自分の考えだけを書くのではなく、資料から読み取れることと本文の内容に即して記述する練習をしましょう。

得点率は、「一 言語事項」が 75.5%、「二 説明文の読解」が 64.1%、「三 物語文の読解」が 67.9%、「四 複数資料を用いた総合的な文章」が 53.8%でした。

2019年1月7日実施

<講評>

I. 計算・文章題の小問集合

例年のI・IIの内容をまとめ、計算問題と文章問題を出題しました。難易度は例年よりやや易しめでした。[1]～[3]の計算問題は、比較的よくできていました。[4]～[6]の文章題では[4]と[6]で得点に差がつかしました。比や割合で間違える受験生が多かったです。

II. 図形の小問集合

例年のIIIの内容で、図形に関する出題でした。[1]は全体的によくできていました。[2]では小数を含む計算を正確に行っていない受験生が見られました。[3]は大きな直方体から小さな直方体をくりぬいた立体の表面積を求める問題でしたが、くりぬく立体の底面の処理で間違える受験生が見られました。(2)では、(1)に正解しても答えにたどり着かない受験生が多く、差が出る問題となりました。

III. 文章と表から読み取る問題

過程や考え方を記述する出題でしたが、得点率は大問の中でもっとも低く、新しい傾向に苦慮したことが見受けられます。

[1]はうろう年について、与えられた文章から設問に関する条件を読み取る力や求める過程を正しく表現する力を問う出題でした。(2)では自分で計算した順に式を書くことはできていましたが、 97×24 などの計算間違いが多くありました。また、そもそも与えられた条件を正しく適用できていない解答も目立ちました。一方で、式だけではなく何を求めているか文章で説明しようとする受験生が少なからずいたことにとっても好感がもてました。

[2]は札幌市と日本の人口について、与えられた表と文章を正確に読み取る力を問う出題でした。(1)は四捨五入の仕組みを問う出題でしたが、正答率が低かったです。仕組みの理解不足だけでなく桁数の間違いがとて多く、答えを求めた後に確かめていないと見られます。(2)では札幌市の人口の変化の捉え方の違いを読み解く必要がありました。変化の仕方は差と割合の2通りで考えることができますが、何に対する問いなのかを見誤ったり、全く関係ないことを書いたりする答案が目立ちました。

IV. 道順に関する応用問題

条件を満たしながら最短距離を進むときの道順の総数を求める問題でした。後の問題ほど正答率が減少していき、差が出る問題となりました。[2][2]は道順が点対称とならないものもあります。全体だけでなく部分的に図形を捉えることが問題の解決につながることもあります。[3][4]以降は難易度の高い問題ですが、実際に道順を書いて試していくことで解決の糸口を見つけることができます。また、それまでの問題の考え方がヒントになっています。[4]はとくに手数も多くかかり正答率が低かったです。

<学習のアドバイス>

正確に素早く計算する力はIの計算問題だけでなく、その後の問題でも必要です。さらに入学後の学習にも欠かせません。計算間違いを単なるミスと捉えずに、しっかりと理由をみつけて無くしていきましょう。次に、いろいろな性質や決まりは暗記するだけでなく、使えることが大切です。図や表も書きながら活用するように心掛けましょう。また、IIIのような過程や考え方を記述する問題からは、文章を正しく読めていない受験生や伝えられない受験生が浮き彫りになりました。正確に読む力や伝える力は、「伝えたいことは何か」を考え、ある事柄を他者に説明し、それが正しく伝わっているかを確認することで身に付けていきます。普段から練習してみましょう。そして、応用問題ではこれらの総合的な力が試されます。まずは基本を完成させ、次に様々な問題を演習して練度を高めます。そのときは1つ1つの問題にじっくり取り組み、しっかり理解してから次の問題に進みましょう。そうすることで応用問題を解く力が身につけていきます。毎日欠かさずに問題を解いていきましょう。

<講評>

I. 化学・物理・生物・地学分野の基本問題

全体的に容易な問題でした。[1] は電磁石に関する問題であり、基本問題にも関わらず苦手とする受験生が多かったようです。[4] の (2) は、比較対象を明確にした上での説明が求められましたが、正確な説明ができず、やや正答率が低くなりました。ここでは、基本問題を確実に得点する力が求められています。

II. 図から読み取る問題

与えられた地層図から、堆積順やどのような変化が起こったかを読み取る問題でした。[2] では、地層ができた P を観測点として、どのような変化が起こったかを説明する問題でしたが、P から見て海岸線がどうなったかを捉えられていない受験生が多くみられ、理解していることを文書で正確に説明する力が必要でした。[6] は環境を説明する問題でしたが、変化を説明している受験生が多く、問題で何を問われているのか正確に読み取る練習が必要だと感じました。

III. 実験結果と表から読み取る問題

実験結果の表から、物質の反応する割合を正確に読み取り、計算する問題でした。[4] の作図では、グラフの折れ曲がりする点が不明確、グラフが原点を通っていないなど、基本的な描き方ができていない受験生が散見されたので、確認が必要です。[6] は計算のステップが多く、正答率は低い問題でしたが、丁寧に計算していけば、それほど難易度が高い問題ではないので、演習がやや必要でした。

IV. 文章とグラフから読み取る問題

与えられた文章とグラフから、設問に関する情報を読み取り、正答へ導く力を問う問題でした。リード文・設問文を正確に読み取れば、難しくない問題でしたが正答率はやや低く、正確に早く読解する力が求められていました。[2] の計算過程を示す問題では、単位換算をどのように過程に示すか戸惑ったようですが、正答率は低くなかったので、演習などでしっかり対策してきた様子が伺えました。[3] は [2] と連動しており、[2] ができなかった受験生は、自動的に [3] もできないため、正答率が低かったようです。また、[5] は完全解答のため正答率が低かったようです。

<学習のアドバイス>

例年通り、知識を問う問題を中心に、正答率も高く、しっかりと勉強してきている受験生は高得点を取っていました。一方で、思考力を問う問題や表を読み取る問題では、問題文を正確に理解できていないと思われる解答も多く、論理的に考える力が求められています。また、説明を求める設問では、何を説明するのか捉えさせていない受験生が見られ、設問を正確に読み取る練習が必要です。理科で大切なのは、自然のできごとをよく観察し、「なぜ」「どうして」そうなっているのかを、粘り強く考えることです。基本的な知識を用いながら、「なぜ」「どうして」そのようになるのかを考え、自分で筋道を立てて説明できるようにしてください。また、文章や表を正確に読み取り、理解する力も必要です。

2019年1月7日実施

I 都道府県のシルエットを題材にした地理総合問題

各都道府県の自然環境・産業・その他特色について総合的に出題しました。正答率から、基礎的事項は押さえられている答案が多かったのですが、各種統計データをもとにした分析問題や、基礎的知識との「関連付け問題」の正答率は低かったです。記述問題では、問題点は2点挙げられていても、最後の結論を「機械化」で終わらせてしまい、「自動化（オートメーション）」までたどり着けていない答案がありました。地理では、様々な知識を「関連付け」できるようになることが、物事の深い理解につながります。

今後は日頃から地図帳を基にした細かい地名に関する学習はもちろんのこと、農業・工業など、それぞれのテーマに関係する各種統計データが出てきたときには、特に「量」や「割合」に注目して見てみましょう。そしてデータを見るときには、単に数字の大小・増減だけでなく、「その数字は何を表しているのか」、「どの様な意味があるのか」、他の数字と「比較」をし、基礎的な地理の知識と結びつけることができるようになります。

II カードによる歴史総合問題

日本の歴史の政治・経済・文化の各分野を総合的に出題しました。時代や年号と出来事を、「セット」で正確に覚えることができている誤答が[1][3][4]を中心に多く見受けられました。記述問題は、「(南蛮)貿易をしていた。」で結論付けているものが多く見られ、そこから1歩踏み込んだ、「…(貿易をしていた)ため、貿易相手国の品物(文化)が日本にもたらされた。(→「から外国語に由来するものが日本語の中には見られる」…とつながる)」という部分まで書くことが満点となるポイントでした。

歴史の学習では、常に「時代」・「時間」を意識し、時系列で「とき・ひと・もの」をセットで覚えることを心がけながら学習を進めると、知識のインプットがスムーズに進みます。そして、出来事1つ1つではなく、その出来事の前後に起こったこととの関連性や連続性を意識しながら、学習を進めてみましょう。それには日頃の学習から資料集を使いながら各種史料を見慣れておくこと、そしてそれらに関連する歴史的な出来事を確実に結び付けられるようにすることが必要です。単語・年号の丸暗記ではなく、「関連性」・「連続性」を意識し、丁寧に内容理解を深めましょう。

III 江別市の歴史をもとにした地理・歴史・公民融合問題 出典：『江別市史 本編』（江別市，2005年）

江別市史という江別市の地理やこれまでの歴史的あゆみを紹介した資料をもとに、特に明治時代以降の歴史的・公民的分野をもとに総合問題を出題しました。問題中に提示されたさまざまな史料は、それぞれ何の出来事に関係するのか判断する力、また、基礎的な知識と結び付けて皆さん自身の言葉で簡単に表現する力を試しています。問5(1)・(2)の正答率が低く、(1)は資料を読み取っただけのもの（粘土が取れる、札幌に近い、だけのもの）は減点としました。そのあとに、「…からそれはつまりどういうことか?」、「何が良いことか?」が加えられるような書き方は、理由を説明した完全な解答とは見なませんでした。江別は煉瓦の原料となる粘土が良くとれた場所であり、それが札幌という煉瓦の需要（必要性）が高い都市（消費地）に近いところにある（…ため、煉瓦づくりが盛んだった）。対策はI・IIと同じく、日頃からさまざまな統計データや史料に見慣れておき、それらを一般的な知識と結び付けること、そしてそれらの内容を自分の言葉で簡単にまとめられるよう、日頃から文章を書いてまとめる訓練をしましょう。